

地方独立行政法人東京都立病院機構の業務実績評価(案)について

- 機構の業務実績評価は、地方独立行政法人法に基づき、知事が、評価委員会の意見を聴いたうえで実施し、その評価結果を都議会に報告する。

※ 東京都地方独立行政法人評価委員会

- ・ 法人の業務実績評価等について、専門的知見に基づき、知事に意見を述べるため、知事の附属機関として、条例に基づき設置
- ・ 24名の委員、4つの分科会で構成
- ・ 委員の任期は2年(任期の上限は4期8年)

分科会の構成及び所管法人

・ 都立病院分科会(7名): 東京都立病院機構

(参考)

- ・ 公立大学分科会(7名): 東京都公立大学法人
- ・ 試験研究分科会(5名): 東京都立産業技術研究センター
- ・ 高齢者医療・研究分科会(5名): 東京都健康長寿医療センター

<都立病院分科会 委員> ※分科会長を除き五十音順、敬称略

氏名	役職
◎福井 次矢	学校法人東京医科大学 東京医科大学茨城医療センター病院長
井伊 雅子	一橋大学国際・公共政策大学院 教授
大坪 由里子	公益社団法人東京都医師会 理事
児玉 修	児玉公認会計士事務所 所長
坂本 すが	東京医療保健大学 副学長
本田 麻由美	読売新聞東京本社編集局医療部 編集委員
山口 俊晴	公益財団法人がん研究会有明病院 名誉院長

◎=分科会長

業務実績評価の流れ

- 地方独立行政法人東京都立病院機構から提出された業務実績等報告書に基づき、知事が業務実績評価(案)を作成
- 東京都地方独立行政法人評価委員会からの意見聴取を経て、知事が業務実績評価を決定し、東京都議会へ報告

機構



業務実績等
報告書提出

知事



評価(案)
作成

意見聴取

評価委員会(都立病院分科会)



意見提出

知事



評価決定

報告

都議会

令和5年度業務実績評価(案)

(1) 全体評価

- 全体として年度計画を概ね順調に実施しており、「着実な業務の進捗状況にある」。

<評語>

- ～特筆すべき業務の進捗状況にある
- ～優れた業務の進捗状況にある
- ～着実な業務の進捗状況にある
- ～業務の進捗状況に遅れが見られる
- ～業務の進捗状況に大幅な遅れが見られ、業務の改善が必要

(2) 項目別評価

- 項目別評価に当たっては、機構から提出された業務実績等報告書の検証等を踏まえ、事業の進捗状況及び成果を年度計画の評価項目ごとに5段階で評価

<評語>

- S … 年度計画を大幅に上回って実施している
- A … 年度計画を上回って実施している
- B … 年度計画を概ね順調に実施している
- C … 年度計画を十分に実施できていない
- D … 業務の大幅な見直し・改善が必要である

(参考) 項目別評価計

	S	A	B	C	D
R4 都評価	3	10	8	0	0
R5 都評価	3	8	9	1	0
R5 法人評価	5	12	4	0	0

項番	項目	R4 都評価	R5 都評価	R5 法人評価
1	がん医療	A	A	A
2	精神疾患医療	A	B	A
3	救急医療	A	A	A
4	災害医療	B	S	S
5	島しょ医療	A	B	A
6	周産期医療	A	A	A
7	小児医療	S	A	S
8	感染症医療	S	A	A
9	難病医療	A	A	A
10	障害者医療	A	B	A
11	総合診療の提供	B	A	S
12	その他の行政的医療、高度・専門的医療等の提供	B	A	A
13	災害や公衆衛生上の緊急事態への優先した対応	S	S	S
14	地域包括ケアシステム構築に向けた取組	B	B	B
15	健康増進及び疾病予防に向けた普及啓発	B	B	A
16	患者中心の医療の推進	B	B	A
17	質の高い医療の提供	A	B	A
18	診療データの活用及び臨床研究・治験の推進	B	B	B
19	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A	S	S
20	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A	C	B
21	その他業務運営に関する重要事項	B	B	B

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<p>○ 様々な治療法を組み合わせた質の高いがん医療の提供</p>	<p>【法人自己評価】</p> <p>○ 手術や放射線治療、薬物療法等を組み合わせた集学的治療を推進し、質の高いがん医療を提供した。 (主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん手術件数 (目標: 7,537件 実績: 7,674件 達成度: 101.8% (R4 6,735件)) ・IMRT・定位放射線治療件数 (目標: 21,875件 実績: 24,930件 達成度: 114.0% (R4 19,869件)) ・外来化学療法件数 (目標: 31,807件 実績: 32,921件 達成度: 103.5% (R4 32,527件)) ・精密検診受診者数 (目標: 31,298人 実績: 20,982人 達成度: 67.0% (R4 22,835件)) 	A	A
	<p>【東京都評価(案)】</p> <p>○ 精密検診受診者数は目標値に届かなかったものの、がん手術件数、IMRT・定位放射線治療件数、外来化学療法件数はいずれも順調に推移している。</p> <p>○ 手術支援ロボットを新たに4病院で導入し、体験会や見学会等を開催して地域医療機関との情報共有を図ったほか、駒込病院における放射線治療装置を増設するなど、低侵襲なロボット支援下手術や放射線治療を一層推進した。</p> <p>○ 大塚病院において外来化学療法室を増床したほか、多摩北部医療センターでは、タブレット端末と独自開発アプリの活用により外来通院治療室と薬剤科注射室、ミキシングルームの運用を円滑化し、業務の効率化と患者の待ち時間短縮を図るなど、患者サービスを向上させながら薬物療法を積極的に提供した。</p> <p>○ がんゲノム医療連携病院である駒込病院、多摩総合医療センター、小児総合医療センター及び墨東病院において一人ひとりの体質や病状に合わせたがんゲノム医療を提供した。特に駒込病院では、各診療科の外来担当医師に代わって検査の説明を行う「CGP(がん遺伝子パネル)検査説明外来」を設置し、各診療科の負担軽減を図るとともに、患者へのきめ細やかな説明を実施した。また、遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)を診断するための遺伝子検査の実施等にも取り組んだ。</p> <p>○ 小児総合医療センターの子どもがん相談支援センターにおいて、ソーシャルワーカー等が、就学・進学、経済的な問題、家族への心理的サポートなど、様々な相談に対応した。</p> <p>➡ 先進的な医療機器を活用した手術や、放射線治療、薬物療法の体制整備により、患者受入れを推進したほか、がんゲノム医療や患者のライフステージに応じた相談支援の実施等、質の高いがん医療を提供したことは高く評価できる。</p>		

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<p>○ 精神科救急医療及び精神科身体合併症医療など質の高い精神疾患医療の提供</p> <p>○ 認知症医療や児童・思春期精神科医療の提供</p> <p>○ 入院患者の円滑な地域生活への移行に向けた支援</p>	<p>【法人自己評価】</p>		
	<p>○ 地域の医療機関や訪問看護ステーション等との連携を図りながら、症状に応じた質の高い精神疾患医療を提供した。</p> <p>(主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都精神科夜間休日救急診療事業による搬送患者数 (目標：1,158人 実績：809人 達成度：69.9% (R4 749人)) ・ 精神科身体合併症患者数(新入院) (目標：504人 実績：649人 達成度：128.8% (R4 650人)) 	A	A
	<p>【東京都評価(案)】</p>		
	<p>○ 都からの依頼件数が目標件数を大きく下回ったことから、東京都精神科夜間休日救急診療事業による搬送患者数は目標に届かなかったものの、都立病院のみで対応している夜間の緊急措置入院については、原則として依頼のあった全ての案件を受け入れたほか、目標を大きく上回る精神科身体合併症患者を受け入れた。</p> <p>○ 東京都認知症疾患医療センター(地域拠点型)に指定されている松沢病院や荏原病院をはじめとして、各病院において、「もの忘れ外来」等による診療や療養支援に加えて、入院中の認知症患者に対する精神科リエゾンチームや認定看護師等によるケアを実施し、専門的な認知症医療を引き続き提供した。</p> <p>○ 小児総合医療センターを中心に、コロナ禍以降増加した小児の摂食障害に対して身体科と精神科とが連携して対応するなど、質の高い児童・思春期精神科医療を提供した。</p> <p>○ 松沢病院では、行動制限最小化委員会を設置して身体拘束ゼロに取り組むとともに、包括的暴力防止プログラム(CVPPP)等の各種研修を通じ、患者の尊厳と安全を守りながら適切に医療を提供した。</p> <p>○ マニュアルの確認、想定リスクの共有等が不十分であったことから、医療観察法病棟入院患者が一時所在不明となる事故が発生した。</p> <p>→ 松沢病院をはじめとする各都立病院において、精神科救急医療、精神科身体合併症医療、児童・思春期精神科医療等、専門性の高い精神疾患医療を着実に提供したことは評価できる。引き続き、一時所在不明事故の再発防止策を確実に実行しつつ、精神疾患医療の質の向上に努めてほしい。</p>	B	A

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<p>○ 総合的な救急医療の提供</p> <p>○ 脳血管疾患や心疾患、重度外傷等の様々な救急患者の受入れ推進</p> <p>○ 精神科身体合併症患者や小児の重症患者などの専門性の高い救急医療の提供</p>	<p>【法人自己評価】</p>		
	<p>○ 各病院において断り症例の分析や院内における応需率の共有など「断らない救急」を徹底し、救急隊との連携や受入体制の強化を図りながら、機能に応じた救急医療を提供した。</p> <p>(主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 救急入院患者数 (目標: 39,480人 実績: 40,783人 達成度: 103.3% (R4 35,737人)) ・ 救急車搬送患者数 (目標: 44,861人 実績: 52,857人 達成度: 117.8% (R4 41,667人)) 	A	A
	<p>【東京都評価(案)】</p>		
	<p>○ 機構全体で受入体制の強化として「断らない救急の徹底」等に取り組み、救急応需率の共有や断り症例の分析、東京消防庁や近隣病院等との連携強化等、各病院において様々な取組を行った結果、新型コロナ対応と両立しながら積極的に受け入れた令和4年度より多くの救急患者を受け入れ、各指標をコロナ禍前の水準以上に回復させた。</p> <p>○ また、RSウイルス等の各種ウイルスの流行により救急需要が急激に高まった際は、地域医療機関と連携を図りながら、小児患者を含め積極的な救急患者の受入れを推進した。</p> <p>○ 広尾病院において、HCUを新たに開設することで重症度の高い患者に対して集中的な治療を行う体制を確保するなど、救急患者の受入体制強化や術後患者の管理体制の充実に取り組んだ。</p> <p>○ 東京ERの運営をはじめとして、初期救急から三次救急までの様々な救急患者に対応したほか、急性大動脈スーパーネットワーク、東京都CCUネットワーク、東京都熱傷救急ネットワークへの参画を通じ、高度で専門的な特殊救急医療を提供した。</p> <p>○ 精神科身体合併症患者の受入れや小児の重症・重篤患者等の救命救急など、一般医療機関では対応が難しい専門性の高い救急医療を提供した。</p> <p>➔ 三次救急、精神科救急、小児救急等を着実に提供したことに加え、機構全体として「断らない救急の徹底」等に取り組み、RSウイルス等の流行時における積極的な患者受入れなど、救急医療を幅広く提供したことは高く評価できる。</p>	A	A

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害拠点病院等に求められる役割に応じた災害医療の提供 ○ 各病院等の災害対応力の強化 ○ DMATや医療救護班等の派遣要請への着実な対応 ○ 地域の災害対応力の向上 	<p>【法人自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大規模災害に備え、物資の備蓄や訓練等の取組を着実に実施するとともに、災害発生時の応援体制を強化するための取組を推進した。 <p>(主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 危機管理統括部長、都立病院機構危機管理対策委員会の設置 ・ 能登半島地震へのDMAT、JMAT、看護師の派遣 ・ DMAT、DPAT隊員の養成、電車事故等の派遣要請に対する出動 <p>DMAT出動回数（実績：43回（R4年度 40回））</p>	S	A
	<p>【東京都評価（案）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ DMAT隊員・DPAT隊員等の育成や医薬品等の備蓄を着実に進めるとともに、危機管理統括部長及び都立病院機構危機管理対策委員会の設置により一元的な危機管理体制を構築したほか、都立病院全体の危機管理に係る基本的対処方針の検討等、危機管理対応力の強化に取り組み、令和6年能登半島地震への適切な対応にもつなげた。 ○ シナリオのない実践的な訓練として、法人本部・病院・所が参加する都立病院機構合同災害訓練を実施したほか、危機管理統括部長による各病院の防災訓練への助言や研修等を実施するなど、機構全体及び各病院の災害対応力を強化した。 ○ 能登半島地震に際しては、都の方針等を踏まえた上で、DMAT（計6班、延べ27名）やJMAT（計13班、延べ56名）を速やかに派遣するとともに、看護師（計14クール、延べ28名）を継続的に派遣することで、被災地の医療現場を支えた。対応にあたっては、現地活動拠点を独自に設置するなど状況に応じた取組を行い、全14病院が協働して対応することで、切れ目のない支援を実現した。 ○ 地域の自治体や関係機関と連携して研修や合同防災訓練等を実施したほか、能登半島地震への対応に係る報告会や映像配信等を通じて都とともに防災対策等の普及啓発に取り組むなど、地域の災害対応力の向上に貢献した。 <p>→ 危機管理統括部長及び都立病院機構危機管理対策委員会の設置により一元的な危機管理体制を構築したほか、都立病院機構合同災害訓練の実施や研修等による災害対応力の強化に取り組んだ。さらに、能登半島地震への対応では、DMAT等の速やかな派遣や看護師の継続的な派遣による切れ目のない支援など、被災地支援に最大限貢献したことは大いに評価できる。</p>	S	B

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<ul style="list-style-type: none"> ○ 島しょ地域からの救急患者等の受入れ体制の確保 ○ 島しょ地域の医療機関等との連携強化 ○ 退院（帰島）後の療養生活への円滑な移行 	【法人自己評価】		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヘキ地医療拠点病院である広尾病院を中心に、島しょ患者へ適切な医療を提供するとともに、5Gを活用した遠隔診療支援や、島しょ医療人材への技術支援等を着実に実施した。 （主な取組） ・ 島しょ新入院患者数（広尾）（目標：1,310人 実績：1,127人 達成度：86.0%（R4 1,407人）） ・ 患者家族宿泊施設の運営（実績：368件（R4 247人）） ・ 5Gを活用した島しょ病院への遠隔診療支援（実績：10件） 	A	A
	【東京都評価（案）】		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広尾病院において、島しょ新入院患者数は目標値には届かなかったものの、島しょ地域の救急患者の受入れにあたり屋上ヘリポートを24時間運用するなど、島しょから都内医療機関への救急患者搬送について、例年と同様に、全体の約9割を都立病院で受け入れた。 ○ 広尾病院及び多摩総合医療センターにおいて、島しょ地域の患者や付き添いの家族等が来院した際に利用できる患者家族宿泊施設を運営し、島しょ患者やその家族のニーズに対応した。 ○ 画像伝送システムによる遠隔画像診断支援、5Gを活用した遠隔診療支援等の実施により、島しょ医療の充実へ貢献した。また、少人数で島しょ医療を支える医師の研修、休暇等の機会確保を支援するため、医師の不在時に代診医を派遣した。 ○ 保健所や役場との情報交換会、医療機関への研修等を実施し、島しょ地域における医療人材の育成に貢献した。また、医療機関等との退院調整WEBカンファレンスを実施することで、島しょとの連携を強化するとともに、退院（帰島）後の療養生活への円滑な移行に取り組んだ。 <p>→ 島しょ地域からの救急患者等の受入れを着実に行ったほか、5Gを活用した遠隔診療支援、代診医の派遣、医療機関等との連携強化など、質の高い島しょ医療の提供に向けて継続的に取り組んでいることは評価できる。引き続き、島しょ地域における医療等の充実に向けた取組を推進してほしい。</p>	B	A

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<ul style="list-style-type: none"> ○ ハイリスクの妊産婦や新生児等への対応 ○ 未受診妊婦や精神疾患合併母体など社会的リスクを抱えた妊産婦への対応 ○ NICU等での治療を終えた入院児の円滑な退院や在宅移行への支援 	<p>【法人自己評価】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都内の出生数が減少傾向にある中でも、各病院の機能に応じて質の高い周産期医療を提供した。 (主な取組) ・ 母体搬送受入件数 (目標: 588件 実績: 549件 達成度: 93.4% (R4 566件)) ・ 超低出生体重児取扱件数 (目標: 100件 実績: 72件 達成度: 72.0% (R4 76件)) ・ 分娩件数 (実績: 3,992件 (R4 3,956件)) 	A	A
	<p>【東京都評価(案)】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 超低出生体重児取扱件数は目標に届かなかったものの、母体搬送受入や分娩対応を着実に実施した。 ○ 大塚病院において、M F I C Uの増床によりハイリスク妊産婦への対応体制を強化するなど、地域医療機関との連携強化を図りながら、ハイリスク妊産婦や新生児等に対して高度で専門的な周産期医療を提供した。 ○ 母体救命対応総合周産期母子医療センターにおいて、院内各科が連携し、緊急に母体救命処置が必要な妊産婦等を確実に受け入れた。また、各病院において、一般医療機関では対応が難しい未受診妊婦や精神疾患を合併している妊産婦等の受入れを積極的に行った。 ○ 豊島病院や荏原病院で産後ケア事業の受託を拡大し、母子に対する心身のケアや育児の相談支援を行うことで、産後も安心して子育てができるよう相談支援体制の充実に向けて取り組んだ。また、大塚病院及び荏原病院で無痛(和痛)分娩を開始するなど、都民ニーズを踏まえた新たな取組にも着手した。 ○ 研修等の実施により地域の医療機関や訪問看護ステーション等への技術支援や連携強化に取り組むとともに、N I C U入院児支援コーディネーターを配置し入院早期からの退院支援を行うなど、N I C U等での治療を終えた入院児の円滑な退院や在宅移行の推進に継続的に取り組んだ。 <p>➔ ハイリスク妊産婦や新生児等への高度で専門的な医療の提供のほか、一般医療機関では対応が難しい未受診妊婦、精神疾患を合併している妊産婦への対応や、産後の相談支援体制の充実に向けた取組等を実施したことは高く評価できる。</p>	A	A

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
【法人自己評価】			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 希少疾患や難治性疾患に対する先進的かつ専門性の高い小児医療の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小児救急医療や小児がん医療、小児難病医療など質の高い医療を提供するとともに、移行期医療、医療的ケア児への支援などの医療課題に取り組んだ。 (主な取組) <ul style="list-style-type: none"> ・ 救急患者数 (小児) (目標: 3,300人 実績: 4,640人 達成度: 140.6% (R4 4,489人)) ・ PICU新入室患者数 (目標: 760人 実績: 776人 達成度: 102.1% (R4 815人)) 	S	S
【東京都評価(案)】			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 重症・重篤な患者や入院を要する救急患者の受入れ ○ AYA世代の患者や小児医療から成人医療に移行する患者に対する相談支援 ○ 児童・思春期精神科医療の提供 ○ 医療的ケア児の在宅療養への移行支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小児がん拠点病院である小児総合医療センターにおいて、集学的治療を要する重症小児がんへの対応を行ったほか、神経病院において、小児慢性特定疾病、脳神経・筋疾患など希少疾患や難治性疾患に対応するなど、先進的かつ専門性の高い小児医療を適切に提供した。 ○ 東京都こども救命センターである小児総合医療センターにおいて、RSウイルス感染症等に積極的に対応したほか、機構全体で「断らない救急の徹底」に取り組み、重症・重篤な患者等を含め、新型コロナウイルス対応と両立しながら積極的に受け入れた令和4年度より更に多くの救急患者を受け入れた。 ○ 小児総合医療センターでは、AYAルームでレクリエーション大会を開催するなど、AYA世代患者の交流の場の提供等に取り組んだ。また、駒込病院では、AYA世代支援チームを編成し、多様な相談支援、がん患者ピアサポートの開催等、多職種による幅広い取組を実施した。 ○ 小児総合医療センターと多摩総合医療センターの連携による患者の成長に合わせた移行期医療の適切な提供のほか、大塚病院及び小児総合医療センターでの東京都医療的ケア児支援センター(東京都受託事業)で、医療的ケア児の在宅療養への円滑な移行に向けた相談支援を実施した。 ○ 小児総合医療センターを中心に、コロナ禍以降増加した小児の摂食障害に対して身体科と精神科が連携して対応するなど、質の高い児童・思春期精神科医療を提供した。 <p>➔ 移行期医療、医療的ケア児への支援、児童・思春期精神科医療等を着実に実施しつつ、先進的かつ専門性の高い小児医療の提供や、AYA世代患者の療養環境の充実に取り組んだ。さらに、RSウイルス感染症等、各種感染症の拡大時に小児救急患者を積極的に受け入れたことは高く評価できる。</p>	A	S

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症指定医療機関の役割に応じた感染症医療の提供 ○ 感染症医療を担う人材の確保・育成 ○ 地域の感染症対応力強化への貢献 	【法人自己評価】		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ5類化以降も陽性患者の受入れを継続するとともに、危機管理体制の充実や訓練などにより、新興・再興感染症への備えを強化した。 (主な取組) ・ 高齢者等医療支援型施設（府中）の運営 ・ 新型コロナ後遺症相談窓口での対応 ・ 感染管理認定看護師新規認定者数 3人（R4 2人） 	A	S
	【東京都評価（案）】		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナの5類移行後も、病床の確保、発熱外来や高齢者等医療支援型施設（府中）の運営、後遺症相談窓口での対応等、様々な取組を継続し、都における通常の医療提供体制への円滑な移行に貢献した。 ○ R Sウイルス、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱等、各感染症の流行時には、都や地域医療機関と連携しながら積極的な対応を行い、多くの救急患者を受け入れた。 ○ 新たに総合診療専門研修プログラムを策定するなど、感染症や合併する症状にも対応できる総合診療医の育成に取り組んだほか、機構の感染症対応力向上プログラムに基づき、有事の際に即戦力となる看護師等を育成した。 ○ 「感染管理向上加算1」を取得している各病院において、保健所や地域の医療機関と連携し、合同カンファレンスの開催や訪問等による感染管理指導を行うなど、令和4年度に引き続き、地域における感染症対応力の強化に取り組んだ。 <p>→ 新型コロナの5類移行後も、都と連携して様々な取組を継続したほか、各種感染症にも幅広く対応した。また、総合診療医や看護師の育成、地域における感染対応力の強化等、様々な取組を行ったことは高く評価できる。</p>	A	S

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<p>○ 脳・神経系難病、免疫系難病等に対する高度で専門的な医療の提供</p> <p>○ 診断・治療から診療・ケア、地域での療養支援に至る一貫した難病医療の提供</p> <p>○ 相談支援や在宅療養に関する技術支援の実施</p>	<p>【法人自己評価】</p>		
	<p>○ 早期の診断・治療から地域での療養支援に至るまで、一貫した質の高い難病医療を着実に提供するとともに、専門人材を活用した地域の在宅療養関連医療機関等を支援した。</p> <p>(主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ALSセンター介入率 (目標: 32.0% 実績: 34.2% +2.2ポイント (R4 34.0%)) ・ てんかん手術件数 (目標: 39件 実績: 48件 達成度: 123.1% (R4 53件)) 	A	A
	<p>【東京都評価(案)】</p>		
	<p>○ 都の神経難病の拠点である神経病院を中心に積極的な取組を継続し、指標はいずれも目標値を上回った。</p> <p>○ 駒込病院では、I g G 4 関連疾患センターを設立し、駒込病院から提唱された新しい疾患である I g G 4 関連疾患について、院内各科の連携を深化させたことで、地域からのニーズに応えられる体制を整備した。</p> <p>○ 小児総合医療センターでは、炎症性腸疾患 (I B D) センターを開設し、小児期発症 I B D について、多職種チームによる多角的な治療や移行期医療に積極的に取り組んだ。</p> <p>○ 神経病院において、3つの疾患領域別センター (「 A L S / M N D センター」 、 「 パーキンソン病・運動障害疾患センター」 、 「 てんかん総合治療センター」) を運営し、診断から治療、在宅療養に至るまでの一貫した難病医療を提供しつつ、地域医療機関への広報活動に注力し、積極的な患者受入れに取り組んだ。</p> <p>○ 神経病院において、東京都多摩難病相談・支援室 (都受託事業) や患者・地域サポートセンターで難病療養相談や就労相談を行い、患者の様々なニーズに応じた相談支援を実施したほか、地域の医療機関のニーズに応じた研修・講演会等の開催や訪問看護ステーションへの看護師派遣など、専門人材による難病患者の在宅療養に関するケア技術向上支援等に取り組んだ。</p> <p>➔ 神経病院における3つの疾患領域別センターの運営や各病院における相談支援等を着実に行ったことに加え、駒込病院及び小児総合医療センターで専門センターを設立して体制強化を図るなど、難病医療の質の向上に向けて積極的に取り組んだことは高く評価できる。</p>	A	A

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<p>○ 障害者の合併症医療や障害者歯科医療等の提供</p> <p>○ 障害者の在宅療養への移行支援</p>	<p>【法人自己評価】</p>		
	<p>○ 各診療科の連携のもと、総合診療基盤を生かした障害者の合併症医療や障害者歯科医療等、障害者医療を着実に提供した。</p> <p>(主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療機関等と連携した障害者の合併症医療や障害者歯科医療の提供 ・訪問看護ステーション等への技術支援、憎悪時の受入れ ・東京都在宅難病患者一時入院事業（実績 75人（R4年度 61人）） 	A	A
	<p>【東京都評価（案）】</p>		
	<p>○ 東京都精神科身体合併症医療事業に参画し、精神科と身体科の連携や病院間での連携により精神科身体合併症医療を提供した。また、全身麻酔下での歯科治療等、一般医療機関では対応が困難な患者に対して、地域の医療機関と連携しながら障害者歯科医療を提供した。</p> <p>○ 東京都訪問看護教育ステーション事業における研修生の受入れなど、訪問看護ステーション等への技術支援や連携強化に取り組むとともに、在宅療養患者の急変・増悪時の受入れ等に着実に対応することで、障害者の在宅療養への移行を支援した。</p> <p>○ 東京都在宅難病患者一時入院事業、重症心身障害児等在宅療育支援事業に参画するなど、在宅療養に移行した障害児者のレスパイト入院に着実に対応した。</p> <p>→ 障害者の合併症医療や障害者歯科医療を着実に提供したほか、地域への技術支援、レスパイト入院対応等、障害者を含む在宅療養患者の支援に継続的に取り組んだことは評価できる。引き続き、専門的な障害者医療の提供と地域医療の質の向上に向けた取組を推進してほしい。</p>	B	A

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<p>○ 幅広い視野からの包括的かつ全人的な医療の提供</p> <p>○ 大学や地域の医療機関と連携した総合診療医の確保・育成</p>	<p>【法人自己評価】</p>		
	<p>○ 専門研修プログラムの策定やレクチャーの実施など総合診療医育成の取組を推進するとともに、モデル病院において診療体制の充実や人材育成を着実に実施した。</p> <p>(主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東京都立病院機構 総合診療専門研修プログラム」の策定 ・東京医師アカデミーの総合診療科専門研修プログラムによる育成（採用実績 4人（R4 2人）） ・広尾病院における病院総合診療科の設置 	S	A
	<p>【東京都評価（案）】</p>		
	<p>○ 令和4年度に策定した「都立病院における総合診療医の育成・活用方針」に基づき、国内外から総合診療の分野で著名な講師を招へいし、症例検討会や回診指導のほか、レクチャーやワークショップ、医療の質・安全向上に関するシンポジウム等、様々な取組を実施した。例えばレクチャーは81回実施し、機構外からの参加者696人を含む延1,688人が参加するなど、医師の技能向上や総合診療の普及等に取り組んだ。</p> <p>○ 東京医師アカデミーにおいて総合診療科専攻医の確保・育成に取り組んだほか、新たに外部有識者を交えながら総合診療推進会議を実施し、「ALL東京で総合診療医を育成」を柱とする「東京都立病院機構 総合診療専門研修プログラム」を策定したことで、令和6年度以降の総合診療医の育成に向けた体制を整備した。</p> <p>○ 広尾病院をモデルとして、新たに病院総合診療科を設置し、診療体制の充実を図るとともに、実務を通じた総合診療医等の育成に向けて取り組んだ。病院総合診療科では、各科との連携強化のもとで病床管理、術後管理等を実施したほか、救急対応に携わる体制を構築するなど、病院の総合診療医を育成するための体制を強化した。</p> <p>→ 総合診療科と専門診療科が連携して幅広い視野から総合診療を提供したほか、プログラムの策定、国内外からの著名な講師の招へい、広尾病院での病院総合診療科の設置等、今後の総合診療医の確保・育成に向けた様々な取組を積極的に実施したことは高く評価できる。こうしたプログラム等に基づき、令和6年度からの育成に期待する。</p>	A	B

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
○ アレルギー疾患医療、生体腎移植等の提供	<p>【法人自己評価】</p> <p>○ 各病院の機能に応じて、一般医療機関では対応が難しい行政的医療をはじめとする質の高い医療を着実に提供した。 (主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全身麻酔手術件数 (目標：28,183件 実績：31,675件 達成度：112.4% (R4 29,038件)) ・ ロボット支援下手術件数 (目標： 986件 実績： 1,186件 達成度：120.3% (R4 759件)) ・ 生体腎移植件数 (目標： 10件 実績： 13件 達成度：130.0% (R4 6件)) 	A	A
	<p>【東京都評価(案)】</p> <p>○ 手術支援ロボットを4病院で新規導入し、ロボット支援下手術を推進するとともに、内視鏡手術、腹腔鏡下手術、血管内治療等、低侵襲な医療を積極的に提供した。また、大久保病院において、地域医療機関を訪問して生体腎移植に係る情報提供を実施し、連携強化を図りながら生体腎移植が必要な患者の積極的な受入れを推進するなど、各指標が目標値を上回った。</p> <p>○ 東京都アレルギー疾患医療拠点病院である小児総合医療センターにおいて、様々なアレルギー疾患に対応した専門的医療を提供するとともに、医療従事者の育成、情報提供及び普及啓発活動などに取り組んだ。</p> <p>○ 各病院において、外国人向けコーディネーターや医療通訳が中心となり、自動翻訳機器、ビデオ通訳等も活用しながら、外国人が安心して適切な医療を受けられるよう取り組んだ。</p> <p>○ 急性大動脈スーパーネットワークや東京都CCUネットワークに参画し、高齢化に伴い増加が予想される脳血管疾患医療、心疾患医療等を適切に提供した。また、広尾病院では、脳卒中相談窓口を設置し、脳卒中療養相談士を中心に、脳卒中患者及びその家族の相談支援に取り組んだ。</p> <p>○ 患者権利章典について、旧都立病院及び旧公社病院での制定から20年以上経過し、医療や病院を取り巻く環境、社会情勢の変化等内外の環境変化を踏まえた、新たな「都立病院患者権利章典」の制定に向けて準備を進めた(令和6年5月制定)。</p> <p>→ アレルギー疾患、腎移植、脳血管疾患、心疾患等の幅広い疾患に対応しつつ、外国人向け医療を着実に実施したこと、ロボット支援下手術等の低侵襲な医療を数多く提供したことは高く評価できる。</p>		
○ 外国人向け医療環境の整備 ○ 脳血管疾患医療、心疾患医療、消化器医療等の提供 ○ ロボット支援下手術等、低侵襲な医療の提供			

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
○ 緊急事態における災害医療の提供 ○ 新型コロナウイルス感染症への対応 ○ その他の新興・再興感染症への対応	【法人自己評価】		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京都や関係機関と連携しながら能登半島地震に率先して対応したほか、コロナ5類化以降も継続して陽性患者を受け入れつつ、新興・再興感染症への備えとして、地域と連携しながら感染対策を実施した。 (主な取組) ・危機管理統括部長、都立病院機構危機管理対策委員会の設置 ・能登半島地震へのDMAT、JMAT、看護師の派遣 ・高齢者等医療支援型施設（府中）の運営 ・コロナ後遺症相談窓口（相談件数 1,736件（R4年度 7,596件）） 	S	S
	【東京都評価（案）】		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ DMAT 隊員・DPAT 隊員等の育成や医薬品等の備蓄を着実に進めるとともに、危機管理統括部長及び都立病院機構危機管理対策委員会の設置により一元的な危機管理体制を構築したほか、都立病院全体の危機管理に係る基本的対処方針の検討等、危機管理対応力の強化に取り組み、令和6年能登半島地震への適切な対応にもつなげた。 ○ 能登半島地震に際しては、都の方針等を踏まえた上で、DMAT（計6班、延べ27名）やJMAT（計13班、延べ56名）を速やかに派遣するとともに、看護師（計14クール、延べ28名）を継続的に派遣することで、被災地の医療現場を支えた。対応にあたっては、現地活動拠点を独自に設置するなど状況に応じた取組を積極的に行い、全14病院が協働して対応することで、切れ目のない支援を実現した。 ○ 新型コロナウイルスの5類移行後も、病床の確保、発熱外来や高齢者等医療支援型施設（府中）の運営、後遺症相談窓口での対応等、様々な取組を継続し、都における通常の医療提供体制への円滑な移行に貢献した。 ○ RSウイルス、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱等、各感染症の流行時には、都や地域医療機関と連携しながら積極的な対応を行い、多くの救急患者を受け入れた。 <p>➔ 平時における災害対応力強化の取組を能登半島地震への対応に生かし、DMAT等の速やかな派遣や看護師の継続的な派遣による切れ目のない支援等、被災地支援に最大限貢献したほか、各種感染症へ幅広く対応しつつ、新型コロナウイルスの5類移行後も様々な取組を継続したことは大いに評価できる。</p>	S	S

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の医療機関との役割分担と連携の推進 	<p>【法人自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の医療機関等との連携推進、地域医療を支えるモデルとなる取組などにより、地域ニーズに応じた地域医療の充実に貢献し、地域包括ケアシステムの構築を支援した。 <p>(主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介率 (目標：79.0% 実績：86.1% +7.1ポイント (R4 82.3%)) ・ 返送・逆紹介率 (目標：76.0% 実績：62.8% -13.2ポイント (R4 60.8%)) ・ 訪問看護同行支援件数 (目標：177件 実績：493件 達成度：278.5%) 	B	B
	<p>【東京都評価(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院等において、連携訪問や、WEBカンファレンス、高度医療機器の共同利用、病院救急車の活用等を通じて、地域の医療機関との機能分担と連携強化を図り、紹介率、返送・逆紹介率の向上に努めた。 ○ 各病院の運営協議会等で出た意見を病院運営に反映するなど、地域の医療ニーズを適切にとらえながら連携強化を図ったほか、急性心血管疾患等の医療の提供や、急性増悪時の患者の受入れに着実に対応した。 ○ 患者・地域サポートセンターにおいて、地域の医療機関、訪問看護ステーション等との退院時の合同カンファレンスや多様な相談への対応を行ったほか、医療介護用SNSを活用した情報共有などにより、患者とその家族が安心して療養生活を継続できるよう支援した。 ○ 東京総合医療ネットワークについて、加盟予定のない松沢病院を除く未加盟の都立病院が順次加盟申請を行うなど、診療情報の共有に向けて取り組んだ。また、相談支援や転退院支援を幅広く実施し、在宅療養等への移行を推進した。 ○ 地域の医療機関等に対し、研修会や出前講座の開催による地域医療を支える人材の育成や、訪問看護同行支援などによる技術支援を実施した。 <p>→ 東京総合医療ネットワークに未加盟の都立病院が順次加盟申請を行う等、様々な取組を着実に実施したことは評価できる。引き続き、地域の医療機関との連携を強化し、紹介率、返送・逆紹介率の向上と地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んで欲しい。</p>	B	B
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域において不足する医療への対応 ○ 地域医療ネットワークを活用した地域の医療機関等への支援 ○ 地域医療を支える人材育成の支援 			

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
○ 健康増進及び疾病予防に向けた普及啓発	【法人自己評価】		
	<p>○ 都立病院が有する知見を活用し、健康増進や疾病予防に関する普及啓発を推進した。 (主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ等での情報提供や公開講座などへの積極的な取組 ・ T o k y oヘルスケアサポーター養成講座の開催 ・ 東京都住宅政策本部及び東京都住宅供給公社との三者による包括連携協定の締結 	A	B
	【東京都評価(案)】		
	<p>○ 機構公式LINEアカウントの開設等、発信力の強化を図ったほか、各病院等が発信している医療や健康に関する情報を一元化し、広く都民へ発信するなど、医療等の知識の普及や啓発に努めた。</p> <p>○ 島しょ地域での出張都民公開講座の開催、小・中学校でのがん教育の実施、がん検診に関する自治体主催の健康講座への講師派遣等、様々な形で健康増進や疾病予防等に向けた普及啓発に努めた。</p> <p>○ T o k y oヘルスケアサポーター養成講座として、がんに関する講演会の開催や健康に役立つレシピ紹介などのパネル展示を行った。また、都営住宅等の居住者や地域住民等を対象として、都立病院の知見や専門性を生かした講座や相談等を実施し、健康で心豊かな生活の支援や地域コミュニティの活性化を目指していくため、東京都住宅政策本部及び東京都住宅供給公社との三者で包括連携協定を締結するなど、都や政策連携団体とも協力しながら普及啓発の推進に努めた。</p> <p>➡ LINEアカウントの開設や島しょ地域での出張都民公開講座、T o k y oヘルスケアサポーター養成講座の開催、次年度に向けた包括連携協定の締結など、様々な取組を着実に実施したことは評価できる。引き続き、都民に対する健康づくりや病気の予防等の普及啓発に取り組んでほしい。</p>	B	B

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<ul style="list-style-type: none"> ○ チーム医療の推進やクリニカルパスの積極的な適用 ○ 患者の意思決定や治療と生活の両立、円滑な入院・転退院の支援 ○ 患者サービスの充実や誰もが安心して医療を受けられる環境整備 ○ 患者や地域の医療機関等が必要とする情報の発信 	【法人自己評価】		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ チーム医療の提供や患者の意思決定、治療と生活の両立の支援など、患者中心の医療を推進した。 (主な取組) <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者満足度（入院）14病院中8病院が目標達成（R4 3病院） ・ 患者満足度（外来）14施設中6施設が目標達成（R4 9施設） 	A	B
	【東京都評価（案）】		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者満足度調査で目標を達成したのは、入院調査では14病院中8病院、外来調査では14施設中6施設であったが、各病院等で患者サービスの改善・向上に向けて具体的な取組の検討を進めた。 ○ 各病院において、多職種連携により質の高い医療の提供に取り組んだほか、クリニカルパスの積極的な活用と適切な見直しにより、良質な医療を効率的に提供するよう努めた。 ○ アドバンス・ケア・プランニングに関する研修会の開催や指針の策定など、各病院において、患者の適切な意思決定支援に取り組んだ。 ○ 患者ニーズに対応し、3病院で患者向け全館Wi-Fiサービスの提供を開始したほか、駒込病院においてピクトグラムの充実を図るなど、誰もが安心して適切な医療を受けられる環境整備に取り組んだ。 ○ 機構のリーフレットや紹介資料を新たに作成し、紹介動画をホームページ等で配信するなど、各病院等の情報を発信した。また、各病院等が開催する講演やイベント等を取りまとめた「イベントカレンダー」を毎月作成し、機構ホームページや公式LINE、X（旧Twitter）で発信するなど、効果的な広報活動に取り組んだ。 <p>➔ アドバンス・ケア・プランニングの推進やWi-Fiの整備等、患者の立場に立った意思決定支援や環境整備に取り組んだほか、都民にわかりやすく効果的な広報活動を推進したことは評価できる。引き続き、患者満足度の向上を目指し、患者中心の医療の推進に向けて取り組んでほしい。</p>	B	B

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療の質を可視化するQIなどの指標を活用した継続的な改善 ○ 医療安全管理体制の確保 ○ 院内感染対策の推進 	<p>【法人自己評価】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療安全や感染管理の取組を着実に実施し、質の高い医療の提供に取り組んだ。 (主な取組) <ul style="list-style-type: none"> ・ Q I (クオリティ・インディケーター) の活用 ・ リスクマネジャー会や医療事故予防対策部会でのインシデント等の共有 ・ 保健所や地域医療機関への感染管理指導 	A	B
	<p>【東京都評価(案)】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ Q I について、全病院で共通して活用できる指標を検討し、令和6年度計画において目標値として設定することで、機構として継続的な改善を行う体制を構築した。 ○ 各病院では、医療安全推進委員会や専従リスクマネジャーが中心となって、インシデント・アクシデント・レポートの検証、再発防止策の立案など、様々な医療事故予防対策を実施したほか、リスクマネジャー会や医療事故予防対策部会で事案を共有し、都立病院全体の医療安全管理体制の確保につなげた。 ○ 機構全体の医療安全週間を設定の上、各病院において巡回点検や研修等の取組を実施し、医療安全に対する一層の意識向上に取り組んだほか、医療安全担当者を対象としたリスクマネジメント研修の実施により、医療安全対策を担う人材の育成に取り組んだ。また、地域のニーズに応じて医療安全研修を実施するなど地域の医療安全意識の向上にも取り組んだ。 ○ 感染制御チームや抗菌薬適正使用支援チームが中心となり、各病院における院内感染対策の取組を着実に実施したほか、地域医療機関への訪問指導や合同カンファレンスによる感染管理指導を行うなど、地域における院内感染対策の向上にも寄与した。 <p>➔ インシデント・アクシデント・レポートの活用や地域医療機関への感染管理指導等、医療安全管理体制の確保や院内感染対策の推進に取り組むとともに、Q I の目標値設定により、継続的に改善に取り組む体制を確保したことは評価できる。引き続き、医療の質の向上と環境整備に取り組んでほしい。</p>	B	A

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<p>○ 臨床研究・治験の推進</p> <p>○ 診療データの集積・活用</p>	<p>【法人自己評価】</p>		
	<p>○ 研究推進センターにおいて、各病院の臨床研究・治験を支援したほか、外部連携も進めながら、研究マインドを持つ人材育成などに取り組んだ。</p> <p>(主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 治験・受託研究実施数 (目標: 255件 実績: 282件 達成度: 110.6% (R4 273件)) ・ 都立大学と連携し、都立大オープンユニバーシティ講座を開催 ・ 新たに東京都医学総合研究所、地域医療機能推進機構、東京医科歯科大学と包括連携協定を締結 	B	B
	<p>【東京都評価(案)】</p>		
	<p>○ 機構の研究推進センターにおいて、各病院の臨床研究の受入れを支援したほか、小児総合医療センターにおいて、国家戦略特区を活用した先進医療や医師主導治験といった質の高い臨床試験を引き続き推進するなど、医療の質の向上・発展に取り組んだ。</p> <p>○ データプラットフォーム(データを蓄積し活用するためのシステム基盤)について、多摩総合医療センターでの導入を進めつつ、その機能や運用状況を踏まえて、令和6年度以降の他病院での導入に向けた検討を行った。</p> <p>○ 各病院で倫理委員会を適切に運営し倫理面・安全面に配慮したほか、東京都公立大学法人東京都立大学と共催でオープンユニバーシティ講座として臨床研究研修を開講するなど、臨床研究の基本概念や実施の際に必要な知識等の定着を図った。</p> <p>○ 機構として、臨床フィールドや教育研究力等の活用によって医療の充実向上等に資することを目的に、東京都医学総合研究所、地域医療機能推進機構、東京医科歯科大学と包括連携協定を締結した。</p> <p>→ データプラットフォームの導入等、診療データの集積と活用に向けて取り組んだほか、国家戦略特区を活用した先進医療や医師主導治験といった臨床試験等を着実に推進したことは評価できる。引き続き、臨床研究・治験の取組を推進し、医療の質の向上・発展への寄与に努めてほしい。</p>	B	B

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<ul style="list-style-type: none"> ○ 効率的・効果的な法人運営体制の構築 ○ 人材の確保・育成 ○ 働きやすい勤務環境の整備及び弾力的な予算執行 	<p>【法人自己評価】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行政的医療を安定的・継続的に提供していくための運営基盤を確立するため、法人の各業務における運用面での課題解決を含め、様々な業務の改善・効率化に取り組んだ。 (主な取組) ・ 新卒看護師離職率 (目標: 9%以内 実績: 8.8% (+0.2ポイント) (R4 16.0%)) ・ 職員満足度 (目標: 70%以上 実績: 68.3% (-1.7ポイント) (R4 61.1%)) ・ 「都立病院人材育成ビジョン」の策定 	S	S
	<p>【東京都評価(案)】</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員満足度について、目標には届かなかったものの令和4年度から大きく改善したほか、新卒看護師離職率は目標を達成するなど大幅に改善した。 ○ 経営戦略担当理事の勉強会を新たに職種別で開催するなど、トップマネジメントの支援力の強化に引き続き取り組んだ。また、新たに業務改善プロジェクトを開始し、マニュアル等の整備による標準化やRPAの活用による自動化など、法人本部と病院等とが一体となって業務の効率化に取り組んだ。 ○ 管理職選考の対象職種の見直しや法人職員の病院選考に係る対象職種の試行的拡大等を行い、各病院の実情を踏まえながら、専門人材の確保に努めた。また、特に看護要員については、病院長の裁量による採用に加え、法人本部での採用選考の追加実施等により、機構全体としてコロナ禍前の水準まで職員を確保した。 ○ 人材育成・活用プロジェクトのプロジェクトチームや、ワーキンググループ、各職種の代表者会等で検討を重ねるなど、多くの職員の参画を得ながら「都立病院人材育成ビジョン」を策定し、職種別のキャリアラダーを示すなど、機構における人材育成に関する取組の方向性等を明示した。 ○ 医師の働き方改革に対応するため、外勤を含めた労働時間の集計などシステム改修を行なったほか、医師事務作業補助者の活用等によるタスクシフティングの推進や、各病院等との連絡会における制度の具体的運用に向けた検討等を実施した。 <p>➔ 新卒看護師離職率が大幅に改善したほか、業務改善・効率化、多くの職員の参画を得ながら検討を重ねた「都立病院人材育成ビジョン」の策定、人材確保、働き方改革への対応等、幅広い取組を実施し成果を得たことは大いに評価できる。</p>	S	A	

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
<p>○ 収入の確保</p> <p>○ 適切な支出の徹底</p>	<p>【法人自己評価】</p>		
	<p>○ 法人の役割を将来にわたり安定的かつ継続的に果たし、都の医療政策に貢献し続けていくため、収入の確保と適切な支出の徹底に努めた。</p> <p>(主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経常収支比率 (目標 : 96.8% 実績 : 92.6% (-4.2ポイント) (R4 104.1%)) ・ 医業収支比率 (目標 : 76.9% 実績 : 70.2% (-6.7ポイント) (R4 70.4%)) ・ 病床利用率 (目標 : 73.0% 実績 : 63.4% (-9.6ポイント) (R4 61.9%)) ・ 平均在院日数 (目標 : 12.2日 実績 : 12.5日 (-0.3日 (R4 12.8日)) 	B	A
	<p>【東京都評価(案)】</p>		
	<p>○ 病床利用率や平均在院日数など、令和4年度より改善した指標はあるものの、コロナ禍での落ち込みから回復し切れておらず、経常収支比率、医業収支比率等、全ての指標が目標に届かなかった。</p> <p>○ 収入の確保については、「断らない救急の徹底」等の受入体制強化に機構全体で取り組んだほか、令和5年度に新設された加算の速やかな取得や、請求漏れの防止に係る病院間での課題共有等、診療報酬制度への適切な対応と確実な請求に努めた。</p> <p>○ また、新たに2病院で診療費後払いサービスを導入したほか、未収金回収業務について契約した法律事務所へ委任する運用方法を全病院で統一するなど、未収金の発生防止等に努め、未収金率の改善につなげた。</p> <p>○ 適切な支出の徹底については、コンサルティングを活用して委託費や診療材料価格の適正化を図ったほか、国立大学病院長会議やJCHOとの共同調達を開始するなど、費用の節減に向けて幅広く取り組んだ。</p> <p>➔ 都立病院では、コロナ禍でコロナ患者対応に注力した結果、通常医療における地域医療機関や救急隊等との関係が薄れ、患者数の減少に至ったものであり、現在は緩やかに回復傾向にあるが、都立病院を含め、都内医療施設全体ではコロナ禍前までには戻っていないなど、病院を取り巻く環境は厳しい状況にあることは承知している。そのような中で、例えば救急患者数についてはコロナ禍前の水準に戻すなど、収入の確保と適切な支出の徹底に向けて取り組んだことは評価するが、各経営指標が目標を下回り、計画を大きく上回る純損失を計上していることから、引き続き改善に向けた取組が必要である。病床利用率等の指標は令和4年度より改善していることや、翌事業年度への繰越金は計画を上回っていることから、次年度以降の更なる取組とその成果に期待する。</p>	C	A

主な計画内容	主な評価内容	R5	R4
【法人自己評価】			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 病院運営におけるDXの推進 ○ 施設・設備の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ DXの推進や施設整備など、法人運営における重要事項に着実に取り組んだ。 (主な取組) ・ 情報セキュリティ研修受講率(目標:100% 実績:100%(±0ポイント)(R4 87.7%)) ・ 広尾病院、多摩メディカル・キャンパス、多摩北部医療センター等の整備に係る対応 ・ 有識者会議の開催(2回)、全病院等における運営協議会の開催による意見聴取 	B	B
【東京都評価(案)】			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報セキュリティ・個人情報保護の徹底及びコンプライアンスの推進 ○ 都立病院の魅力発信 ○ 関係機関との連携 ○ 外部からの意見聴取 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2病院を対象にサイバー攻撃を意識した模擬テストを実施し問題がないことを確認したほか、サイバーセキュリティ監査中期計画を策定するなど、サイバーセキュリティ対策に取り組み、情報セキュリティ研修受講率は100%を達成した。 ○ 広尾病院の整備において、令和6年度の事業契約に向けて落札者と基本協定を締結したほか、多摩メディカル・キャンパスの整備については、実施設計を行うとともに、多摩総合医療センター東館の工事を実施するなど、それぞれの施設整備を着実に推進した。 ○ WEBフォームにおける個人情報の誤表示や、訪問調査時の個人情報紛失、医薬用外劇物の紛失、医療観察法病棟入院患者の一次所在不明といった複数の事故が発生した。 ○ 口コミ撮影の積極的な受入れやSNS等を活用した情報発信など、都立病院の認知度向上や効果的な広報活動の推進に向けて取り組んだ。 ○ 包括連携協定による連携先と、人材育成に関する取組や病院運営に係る情報交換を行うなど、組織の活性化に取り組んだ。 ○ 有識者会議を2回開催したほか、全ての病院等で運営協議会を開催し、有識者や地域の関係者から幅広い意見を聞きながら病院等の運営を行った。 <p>➔ DX推進に向けた取組を行うとともに、着実に施設整備を進めたほか、都立病院の情報発信や関係機関との連携を進めたことは評価できる。引き続き、有識者会議や運営協議会等で得た外部からの助言・提言等を機構や病院の運営に生かすとともに、各事故の再発防止策を適正に講じ、コンプライアンスの推進に取り組んでほしい。</p>	B	B

各病院等の主な経営指標

(単位：千円)

	経常収益			経常費用			経常利益			新入院患者数 (人)		病床稼働率 (%)		新来患者数 (人)		患者1人1日当たり 入院診療収益 (円)		1日平均 入院患者数 (人)		平均在院日数 (日)		1日平均 外来患者数 (人)		
	R5年度	R4年度	差引増減	R5年度	R4年度	差引増減	R5年度	R4年度	差引増減	対前年度 (人)	対前年度 (人)	対前年度 (ポイント)	対前年度 (人)	対前年度 (円)	対前年度 (人)	対前年度 (人)	対前年度 (日)	対前年度 (日)	対前年度 (人)	対前年度 (人)				
1 広尾病院	12,335,556	14,601,743	△ 2,266,187	15,791,444	15,634,512	156,932	△ 3,455,888	△ 1,032,769	△ 2,423,119	7,581	626	57.3	4.4	18,643	3,944	81,147	777	231.5	12.2	11.2	△ 0.4	466.2	48.0	
2 大久保病院	7,872,293	10,315,709	△ 2,443,416	9,312,046	9,097,516	214,530	△ 1,439,753	1,218,193	△ 2,657,946	5,224	460	52.0	0.7	10,641	475	69,552	△ 2,268	158.1	2.7	10.2	△ 0.4	317.1	△ 10.7	
3 大塚病院	12,314,193	13,380,700	△ 1,066,507	14,512,420	14,587,500	△ 75,080	△ 2,198,227	△ 1,206,800	△ 991,427	8,260	△ 193	58.7	△ 0.7	21,900	△ 166	69,410	△ 2,788	245.4	△ 2.2	10.8	0.1	631.0	10.8	
4 駒込病院	36,413,437	38,616,660	△ 2,203,223	37,979,619	36,960,739	1,018,880	△ 1,566,182	1,655,921	△ 3,222,103	13,380	409	59.8	3.0	16,092	△ 404	89,483	△ 4,324	478.8	25.3	13.1	0.3	1,040.4	9.0	
5 豊島病院	13,002,463	15,452,819	△ 2,450,356	13,161,129	14,003,943	△ 842,814	△ 158,666	1,448,875	△ 1,607,541	8,630	354	61.9	2.0	20,044	△ 790	68,306	△ 1,614	254.3	8.7	9.8	△ 0.1	509.4	1.9	
6 荏原病院	10,529,613	12,738,393	△ 2,208,780	10,802,668	10,863,215	△ 60,547	△ 273,055	1,875,178	△ 2,148,233	6,444	607	45.1	2.4	19,403	2,192	61,834	147	205.2	11.7	10.7	△ 0.6	432.1	32.0	
7 墨東病院	32,069,055	33,112,111	△ 1,043,056	33,604,202	31,867,309	1,736,893	△ 1,535,147	1,244,802	△ 2,779,949	15,762	1,567	71.4	6.7	41,253	2,936	90,321	553	519.8	49.4	12.1	△ 0.1	1,025.2	24.8	
8 多摩総合医療センター	34,941,080	37,938,938	△ 2,997,858	37,441,866	37,210,498	231,368	△ 2,500,786	728,440	△ 3,229,226	19,138	677	75.7	5.2	34,321	443	83,394	△ 505	572.6	35.0	11.0	0.3	1,504.4	△ 28.0	
9 多摩北部医療センター	10,393,894	10,698,002	△ 304,108	11,638,598	11,146,822	491,776	△ 1,244,704	△ 448,821	△ 795,883	7,989	876	67.4	4.6	17,427	△ 783	67,468	107	221.2	15.6	9.3	△ 0.5	426.5	△ 3.3	
10 東部地域病院	7,975,707	9,683,605	△ 1,707,898	9,485,206	9,731,002	△ 245,796	△ 1,509,499	△ 47,397	△ 1,462,102	7,051	186	54.5	△ 2.0	17,324	△ 784	71,548	△ 2,398	163.6	△ 5.4	7.5	△ 0.5	354.8	0.9	
11 多摩南部地域病院	8,175,224	9,992,208	△ 1,816,984	9,328,199	9,413,452	△ 85,253	△ 1,152,975	578,756	△ 1,731,731	7,214	486	62.1	2.6	15,055	△ 1,022	69,126	△ 1,129	171.9	7.7	7.8	△ 0.2	354.4	△ 11.1	
12 神経病院	8,234,011	7,974,368	259,643	8,395,046	8,098,075	296,971	△ 161,035	△ 123,707	△ 37,328	3,891	233	63.0	△ 0.2	545	2	60,332	6,143	186.6	0.1	17.5	△ 1.2	10.6	0.8	
13 小児総合医療センター	22,192,422	22,423,225	△ 230,803	22,236,963	22,503,084	△ 266,121	△ 44,541	△ 79,859	35,318	10,400	△ 25	65.8	0.9	37,070	1,658	82,721	△ 35	350.9	5.8	12.3	0.2	702.2	20.6	
14 松沢病院	13,828,051	13,913,822	△ 85,771	13,864,443	13,928,016	△ 63,573	△ 36,392	△ 14,195	△ 22,197	3,283	△ 220	69.6	△ 7.4	5,965	△ 1,247	24,158	6	587.9	△ 60.9	65.0	△ 2.4	417.3	△ 8.8	
15 がん検診センター	1,006,699	1,110,924	△ 104,225	1,108,081	1,200,935	△ 92,854	△ 101,382	△ 90,012	△ 11,370	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計	231,283,698	251,953,226	△ 20,669,528	248,661,930	246,246,620	2,415,310	△ 17,378,232	5,706,606	△ 23,084,838	124,247	6,043	63.4	1.5	275,683	6,454	70,707	492	4,347.8	105.7	-	-	-	8,191.6	86.9